

桔梗ヶ原

桔梗ヶ原は乗鞍岳の山頂付近に広がっています。標高 2,700 メートルという高所にあるため、この平原は常緑低木で最大 5 メートルの高さまで成長するハイマツ（Siberian dwarf pine）の絶好の生息地となっています。桔梗ヶ原のハイマツは膝ほどの高さまで成長します。この低木は広範囲にわたって水平に広がる傾向があることから、別名「這松（creeping pine）」とも呼ばれています。時間をかけて成長するこれらの植物は、最長 1,000 年にわたって生存することができます。

Rock ptarmigan（ライチョウ）はハイマツの下に巣を作ります。この保護種は希少で見つけるのは難しいですが、その自然生息地である桔梗ヶ原でなら見つけることができるかもしれません。ライチョウという名前は直訳すると「雷の鳥」という意味ですが、これはこの鳥が好んで高地に住むことが基になっていると言われています。ライチョウはまた、山の霊が宿ると言われる高所に生息していることから、「神々の鳥」としても知られています。この中型のグラウスは年に三回換羽し、その羽毛を白色から茶色、そして黒色へと変化させ、冬には再び白色に戻ります。

桔梗ヶ原には長野県の松本と岐阜県の高山のどちらからでもバスもしくはタクシーで容易にアクセスすることができます。平湯温泉から出発する「ご来光見学」バスは、訪れる人が日の出を見ることができる時刻に乗鞍（畳平）バスターミナルに到着し、夏の晴れた日には日の出と共に早朝の穂高連峰の眺望を楽しむことができます。